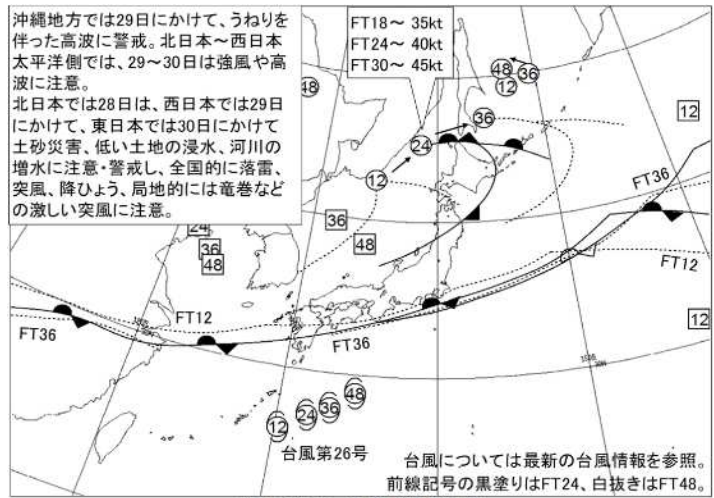


# 短期予報解説資料 2026年9月28日03時40分発表

気象庁

## 1. 実況上の着目点

- ① 非常に強い台風第26号は南大東島の西北西にあって東北東へ進んでいる。台風の中心付近では雷を伴い猛烈な雨を解析。
- ② 衛星水蒸気画像では、中国東北区にトラフがあつて暗域が明瞭。また、西日本から東日本の南岸付近に前線が停滞しており、①の台風や日本のはるか東の高気圧周辺からの下層暖湿気の流入により雷を多数検知。西日本から東日本にかけて海上では非常に激しい雨を解析し、西日本ではメソサイクロンを検知。
- ③ ②のトラフに対応して日本海に低気圧が発生し北東進している。



主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風は29日にかけて、南西諸島近海を北東へ進むため非常に強い風が吹き、波がうねりを伴って大しけとなる所がある。沖縄周辺海域では海水温が30℃程度となっていることから、28日は非常に強い勢力を保ったまま北上を続ける見込み。また、台風は30日には日本の南まで北上する見込みで、東日本～西日本の太平洋側を中心に29日から30日はうねりを伴い波が高くなる。南西諸島では29日にかけて高波に警戒し、強風に注意・警戒。東日本～西日本の太平洋側では、29日から30日にかけて強風や高波に注意。
- ② 1項②の前線は29日にかけて本州の南岸付近に停滞し、850hPa  $\theta_e$  345K以上の下層暖湿気が流入する。このため、西日本では29日にかけて、東日本では30日にかけて大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降るおそれがある。前線は30日には西日本では不明瞭となるが、東日本の太平洋側では引き続き停滞し、30日夜にかけてやや北上する見込み。これまでの大雨により地盤の緩んでいる所では普段より少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まりやすいことに留意。西日本では29日にかけて、東日本では30日にかけて土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項③の低気圧は28日朝までに前線を伴い、その後29日にかけて日本海から宗谷海峡付近を通って発達しながらオホーツク海に進み前線が北～東日本を通過する。低気圧や前線に向かって850hPa  $\theta_e$  327K以上の下層暖湿気が流入。また、1項②のトラフが-15℃以下の寒気を伴いながら北日本を通過するため、大気の状態が非常に不安定となり、局地的に雷を伴い激しい雨が降る見込み。また、低気圧や前線周辺では気圧の傾きが大きくなるため、29日から30日は風が強く吹き、波が高くしける所がある。北日本では28日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。29日から30日は強風や高波にも注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

## 4. 防災関連事項【量的予報等】

- ①雨量(06時からの24時間)：伊豆諸島 120、北海道 100mm。

- ②波浪(明日まで)：沖縄 7、奄美・北海道 4、東北 3m。

## 5. 全般気象解説情報発表の有無

「台風第26号」を05時頃に発表予定。